

令和5年度 学校評価（あきた型）シート
「秋田西高等学校」

①	評価領域	特別活動部
---	------	-------

目標の設定（Plan）

②	重点目標	行事や生徒会活動、部活動などを通して、秋田西高校生としての自覚を持つとともに、社会の一員として自立できるような能力を養う。
③	現 状	5月からコロナの制限は実質的に無くなったが、3年間のブランクにより、学校行事や部活動等の運営ノウハウがうまく蓄積されていない。
④	具体的な目標	学校行事や部活動等をコロナ以前の規模で実施できるよう努めると同時に、無条件に復活させるのではなく、スクラップ&ビルドの観点で実施する行事や部活動の活動内容の精選や効率化について議論する余地を残しておく。
⑤	目標達成のための方策	学校行事や部活動等をコロナ以前並みに実施するためには試行錯誤が必要であり、生徒会執行部や各委員会、各部活動を中心として、創意工夫を凝らしつつ、業務効率化とのバランスを取りながら運営を行う。

実践（Do）

⑥	具体的な取組状況	運動会では近隣幼稚園と連携して開催し、スポーツ大会、地域懇談会、その他の行事も例年のサイズで開催できた。文化祭もほぼコロナ前の規模に戻して開催できた。
⑦	達成状況	生徒会執行部と特活部が中心となり行事を企画運営し、体育科とも連携しながら概ね目標は達成できたと考える。

自己評価（Check）

評価基準	A：具体的な活動が示され目標を達成できた。 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。
------	---

⑧	自己評価	評 価	根 拠
		A	引き続きコロナ感染症の注意が必要な中で、無条件に元の形に戻すのではなく、今年度の状況に合った形で行事運営の細部に修正を加えながら開催することができた。
⑨	学校関係者評価と意見	評 価	意 見
		A	既存の学校行事に新たな工夫を加えて企画運営されている。部活動も頑張っている。今後は生徒が自ら考えて発信するような新たな活動に取り組んでほしい。

改善した実践（Action）

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒の主体性を育むような活動の在り方が求められている。HR活動、生徒会活動、学校行事、部活動など様々な場面で生徒が自ら考える機会を用意しながら指導に取り組みたい。
---	-----------------------	---